

幼稚園・保育園・認定こども園・小学校 切れ目のない支援体制について

— 情報交換・引き継ぎに関わる体制構造図 (OODA^{ct} ループ) —

【期待される効果①】 小学校不適応の減少

小学校入学段階において、新1年生の不安や抵抗が軽減されるとともに、小学校が、園から提供された事前情報をもとに適切な支援を行うことで、学校に不適応を起こす子どもが減少する。

【期待される効果②】 適正な学びの場の選択

就学前の早い段階から園と小学校で特別な支援を要する子どもの情報を共有したり、連携をとりながら家庭への働きかけを行ったりすることで、一人一人の子どもに適した学びの場を決定することが可能になる。



OODA^{ct}

【実行】 就学前後
を問わず、切れ目
ない支援体制を構
築する。

小学校就学

◎ 小学校の園への聞き取り

◎ 就学予定児引き継ぎシートの提供

就学予定園児の情報を就学先の小学校へ提供し、共通理解を図ることで、スムーズな小学校生活への移行を図るとともに、小学校における支援の参考とする。

◎ 就学前教育を語る会 (小学校長主催)

就学する子どもとその保護者への支援をつなぐ取り組みについて、そのよさと課題を共有し、以後の支援の充実に努める。

◎ 新入生説明会

就学する子どもが小学校を見学・体験することで、就学に向けた不安を和らげるとともに、小学校教育や家庭教育に関する保護者への説明を通して、養育態度等の啓発を図る。

◎ 就学時健康診断

学校教育を受けるにあたり、就学する子どもの健康上の課題について保護者及び本人の認識と関心を高める。また、学校生活や日常生活の支障となるような疾病等の疑いのある子どもをスクリーニングし、適切な治療の勧告を行ったり、以後の支援計画の参考にしたりする。

◎ 園・小学校合同情報交換会

次年度就学の園児のうち、早めに情報共有したほうが良いと思われる園児の情報を、就学先の小学校に提供する。

◎ 米子市小学校オープンスクール

就学する子どもが早期に小学校を見学・体験することで、小学校生活への期待を持たせるとともに、学校と保護者及び保護者同士のネットワークを構築するための契機とする。
1年次…モデル校開催
2年次…中学校区毎 (もしくは各校開催)
3年次…全校 (一斉) 開催

幼稚園・保育園・認定こども園

ooDA^{ecide}

【方針決定】 幼稚園・保育園・認定こども園と小学校との情報交換や交流等を、これまで以上に早い段階且つ複線的に行う。

◎ 園長・小学校長顔合わせ・説明会

当年度の園長・小学校長の顔合わせを行うとともに、当年度の切れ目のない支援体制について、目的と概要を共通理解する。

小学校

年長児

◎ 5歳児健診

米子市 こども未来局



O^{rient}ODA

【考察・判断】 小学校の下学年における不登校や学級が機能しない状況などを改善するためには、これまで以上に幼稚園・保育園・認定こども園と小学校との連携を密にし、切れ目のない支援体制を築いていく必要がある。

【実態観察】 小学校下学年の不登校の増加、学級が機能しない状況

O^{bserve}ODA